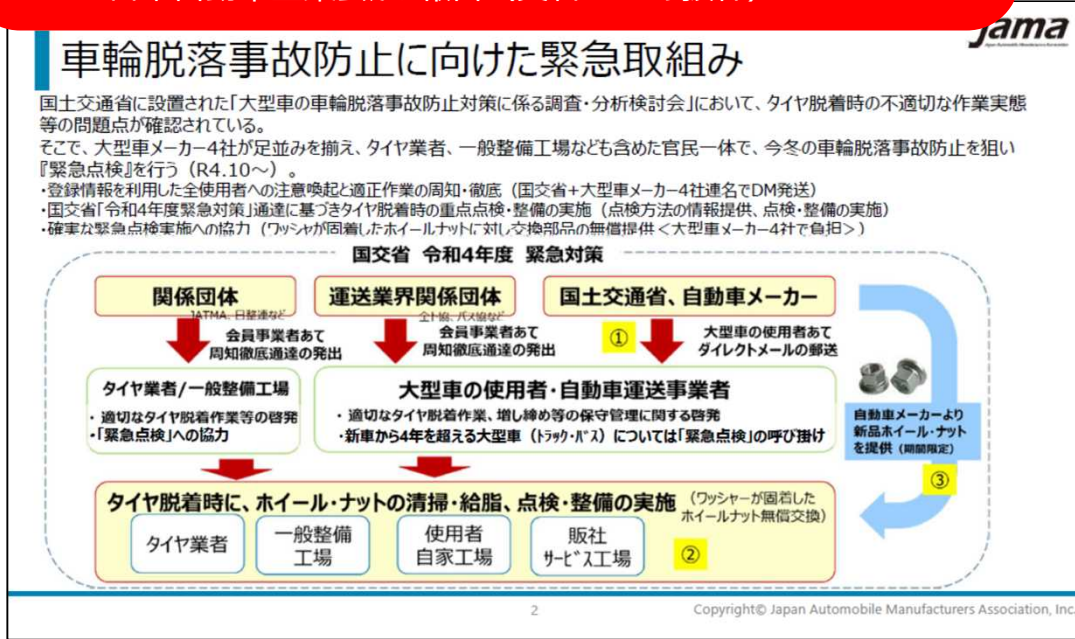


大型車の車輪脱落事故防止に向けた取り組み

一般社団法人 日本自動車工業会
大型車車輪脱落事故防止分科会
2023年9月14日

2022年度 緊急点検の実施（ふりかえり）

【再掲】第3回 大型車の車輪脱落事故防止対策に係る調査・分析検討会
日本自動車工業会から報告（資料4-2より抜粋）



【大型4社ディーラーの取り組み実績】

点検台数	97,925台
ホイールナットを交換した台数	9,030台
交換したホイールナット	225,046個

【お客様やタイヤ業者へのホイールナット提供実績】

ホイールナットを交換した台数	3,680台
提供したホイールナット	43,769個

【参考資料】

緊急点検 アンケート集計結果



全使用者に直接メールを送付し、緊急点検とタイヤの正しい脱着作業を呼びかけ、2022年10月～2023年2月のキャンペーン期間中、日本自動車工業会では緊急点検を実施、さらにお客様やタイヤ業者からの申請に応じてホイールナットを無償提供。キャンペーン期間終了後も、夏タイヤへの交換が終わる5月までの間、大型4社はディーラーに車検入庫した車について、取組みを継続し施策に全面協力。

2022年度 自工会啓発活動（ふりかえり）

近々の調査等で判明してきた事故防止の有効な手段と考えられる「ボルトやナットの錆・汚れの除去／潤滑油の塗布」を強くメッセージする表現へシフト。前年度の課題より、認知度と理解度を両立させ、さらに“タイヤ業者やドライバーに直接届く啓発施策”を追加し取組みを強化。

「お・ち・な・い」の啓発



「お・ち・な・い」というキャッチフレーズを活かした施策を継続し、近々の調査等で判明してきた事故防止の有効な手段と考えられる「ボルトやナットの錆・汚れの除去／潤滑油の塗布」を強くメッセージする表現へシフト。さらにポスターとチラシにそれぞれの役割を持たせ、使用目的を明確化することで、見る人の理解と認知がより高くなるアイテムとした。

- ・全国（運送事業者・整備事業者・タイヤ代理店等）にポスター配布：112,951枚
- ・自家用団体への展開（追加施策）
- ・SA、PAへのポスター掲示：33か所
- ・国土交通省にチラシ提供：38,330枚（10ヶ所）
- ・各団体紙への全面広告掲載
- ・緊急点検DMに同封（約60万台）

『連結式ナット回転指示インジケーター』の活用



日常点検を確実に実施頂くための“点検補助具”として定着させる。2022年度はより確実に装着頂くよう地方運輸局での路上検査での装着、配布。

- ・地方運輸局での路上検査での装着、配布（2,000台）
- ・説明チラシ・動画は、自工会HPに掲載

小規模タイヤ事業者/ドライバーへの直接の注意喚起



- ・団体に所属しない小規模タイヤ事業者を日本自動車工業会独自に調査。開封率を上げるためノベルティー付きDMを直接発送、注意喚起。
- ・積雪地域の大型車ドライバーにWeb広告（バナー広告）を活用し注意喚起。

- ・小規模タイヤ事業者：2,000軒
- ・積雪地域のトラックステーション（5か所）

2023年度の啓発活動

車輪脱落事故を防ぐための注意点、正しい作業の周知は継続しつつ、車輪脱落事故を起こすと大変なことになる、そうならないように危機意識を醸成し、ドライバーなどタイヤを脱着する作業者に**当事者意識を持たせ正しい作業へ促す**。

「お・と・さ・な・い」の啓発



国土交通省で車輪脱落事故は大変なものであることを訴求するポスターを掲出頂くことから、日本自動車工業会では“正しい作業の周知”に絞り、役割を分担して相乗効果を最大化させる。また、これまでの活動で浸透している「おちない」のフレーズは、センテンスの見直し（判り易さ、伝えたいことを整理）に合わせて、自分事として強い意志を表す「お・と・さ・な・い」にアップデートする。

<展開>

国土交通省・関係団体にポスター、チラシを配布し、各事業所、高速道SAなどで、10月より掲出。

動画による訴求



情動に訴える動画とすることで、タイヤの脱着を行う作業者一人一人に、車輪脱落事故を自分事として捉えていただき、確実に車輪脱落事故を防ぐ（2種類の動画を準備）。

<展開>

YouTubeで視聴できるようにし、点検整備に注力するYouTuberや日本自動車工業会/各社SNSを活用し展開（10月下旬）。整備管理者研修での視聴など国土交通省・関係団体の皆様にご活用いただけるよう提供。

『連結式ナット回転指示インジケータ』の活用



日常点検を確実に実施頂くための“点検補助具”として、これまで地方運輸支局に協力頂き、街頭検査などの際、インジケータを配布、周知。本年度は、配布したインジケータを確実に装着し、正しくご使用いただくためのモニターアンケートを行う。

<展開>

地方運輸局での路上検査、整備管理者研修での配布（2,000台）。

お・と・さ・な・い の啓発（正しい作業の周知）

国土交通省・日本自動車工業会、それぞれの啓発・訴求内容をすり合わせ、役割を分担して相乗効果を最大化させる。



事業者、ドライバー、整備工場の皆さんの協力をお願いします。

防ごう 大型車の 車輪脱落事故

おとさな

危ない!

動画をチェック!

おとさなための点検整備

事前の正しい点検が大きな事故を未然に防ぐ唯一かつ最後の手段です。

トルクレンチで適正締付

適正なトルクレンチによる規定トルクの締め付け、タイヤ交換後の増し締めの実施。

錆びたナットは清掃・交換

ディスクホイール取付面、ホイールナット当たり面、ハブの取付面、ホイールボルト、ナットの錆やゴミ、追加塗装などを取り除きます。

ナット・ワッシャー隙間に給脂

ホイールボルト、ナットのねじ部と、ナットとワッシャーのすき間にエンジンオイルなど指定の潤滑油を薄く塗布し、回転させて油をなじませてください。

いちにち一度は 組みの点検

運行前に特に取付が多い左後輪を中心に、ボルト、ナットを目で見て手で触って点検します。

Mr. 整備くん

国土交通省：『車輪脱落事故は大変危険なものであること』を訴求

日本自動車工業会：正しい作業の周知

- 締め付けに、特に影響を与える“ホイールナットとワッシャーの隙間へのエンジンオイルなどの塗布”“錆の清掃”を重点に 正しい作業を周知
- ポスターを見た方が今年もこの時期が来たかと想起させる
- 各センテンスを覚えやすく短めに洗練

自分事として強い意思を表すフレーズに変更

「お・ち・な・い」から「お・と・さ・な・い」

国土交通省・関係団体にポスター、チラシを配布。各事業所、高速道SAなどで、10月より一斉に掲出。

動画による訴求 (10月下旬～)

① 30秒CM "車輪脱落の危険性に関心が薄い、または安易に考えているドライバー向け"

30秒CMをYouTubeに展開。ターゲットへ車輪脱落の危険性を訴えることに重点を置いたインパクトのある演出でユーザーに関心を持たせ、詳細な情報を掲載したLPに誘導。

YouTube上で、多くの大型ドライバーに見られる動画として展開
脱落事故の危険性を浸透させる

3つのポイント

1.インパクトのある演出で興味を引く

30秒CMではタイヤ脱落の危険性に重点を置いた内容とし、より多くの大型ドライバーに関心に向けさせる。

2.事故の存在を認識させる

車輪脱落による事故が年々増加傾向にあり、近年120件以上にも及んでいるという事実を伝え自分事として捉えてもらう。

3.具体的な行動へと促す

視聴者が詳細を求めLPへアクセス。
また動画概要欄にストーリー動画（ロング版）のリンクも追加。



② 再現VTR（ロング版）"適切な整備について再認識が必要なドライバー向け"

整備を安易には考えてはいないが、適切な作業や管理を行っていないドライバーに事故が起きてからでは遅いという事を深く認識させ、適切に整備を行うことの大切さを訴求する。※LPに掲載

車輪脱落防止キャンペーンの特設LP上やYouTubeで展開
適切に整備を行うことの大切さを訴求する

3つのポイント

1.ストーリーで感情に強く訴える

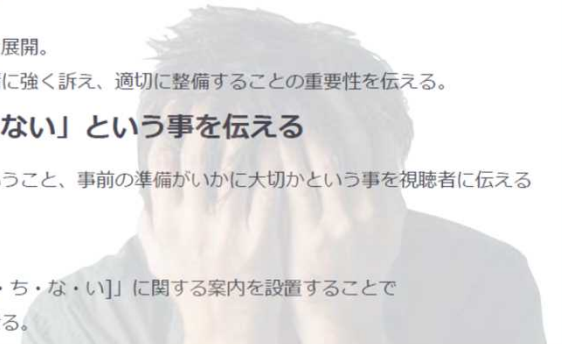
車輪脱落事故を起こした男の物語、再現ドラマを展開。
最後まで真剣に見てもらえるように視聴者の感情に強く訴え、適切に整備することの重要性を伝える。

2.「適切に整備すれば事故は起きない」という事を伝える

適切な整備、点検を行うことで事故が防げるということ、事前の準備がいかに大切かという事を視聴者に伝える

3.最終的に整備、点検へと促す

概要欄や動画の最後に「タイヤ整備のルール[お・ち・な・い]」に関する案内を設置することで整備実施率の向上、ひいては事故件数を減少させる。



整備管理者研修での視聴など、国土交通省・関係団体の皆様にご活用いただけるよう提供予定

インジケータの活用



これまで地方運輸支局に協力頂き、街頭検査
などの際、インジケータを配布、周知。

本年度は、これまでの配布、周知活動に加え、配布したインジケータを確実に装着し、正しくご使用いただくためのフォローアップとして、モニターアンケートを行う。

【モニターアンケートの概要】

- ①インジケータ配布時に、整備管理者やドライバーにモニターアンケートへの協力を依頼。
- ②ユーザーが車に装着し使用。その後、Webアンケートで感想（判り易さ、負担軽減など）を回答（3分程度）。
- ③アンケート結果は、国土交通省にご報告。今後の点検整備の取り組みに役立つ。



タイヤ脱着作業者による人為的な作業ミス为前提としたハード対策

2022年12月公表の中間とりまとめ

8. 今後の大型車の車輪脱落事故防止対策のあり方

8.2. 中・長期的に実施すべき抜本対策

(3) 大型車の使用者等のタイヤ脱着作業者による人為的な作業ミス为前提としたハード対策



大型車の車輪脱落事故については大事故につながりかねない大変危険なものであり、大型車の使用者等のタイヤ脱着作業者の人為的な作業ミスが事故要因となる可能性も避けられないことを踏まえ、これまでも（一社）日本自動車工業会において、車輪の脱落前に車両側でナットの緩みを検知できるシステムの有用性について検討してきているところであるが、検知精度等の課題が残されている。 今後は、ナットの緩みの予兆検知等に関するハード対策について、できるだけ早く開発に向けた中・長期計画を策定し、製品化に向けて取り組みを推進することが重要であり、各自動車メーカーにおいて検討を進めることが期待される。 また、国土交通省においては、中・長期的に規制の方向性に係る検討含め、必要な検討を進めることが望ましい。

予兆検知システムに関しては、想定した通りの車両挙動は検知でき、見込みが期待できる手法であることが確認できたことから、日本自動車工業会/大型4社で協調し取り組んだ基礎研究のフェーズは2022年度で終了。2023年度からは、各社での技術開発に移行している。

【参考資料】

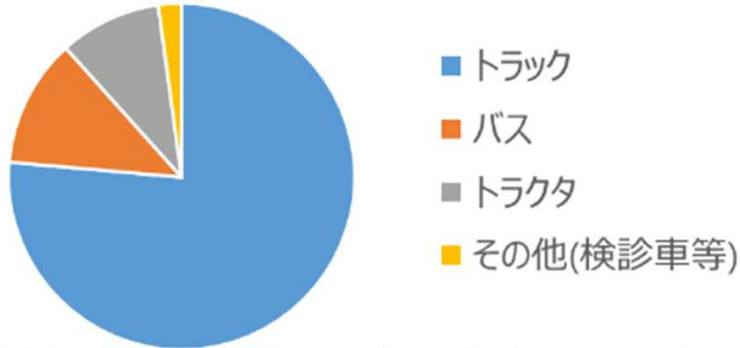
緊急点検 アンケート集計結果

緊急点検 アンケート集計結果

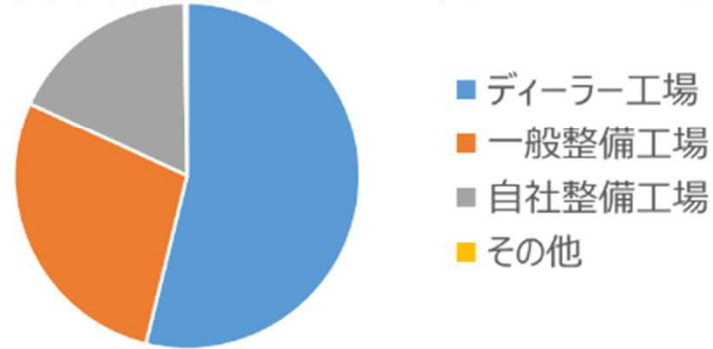
□ 緊急点検、お客様アンケートの状況

◆ 車検・点検をディーラで実施しているお客様が50%程度

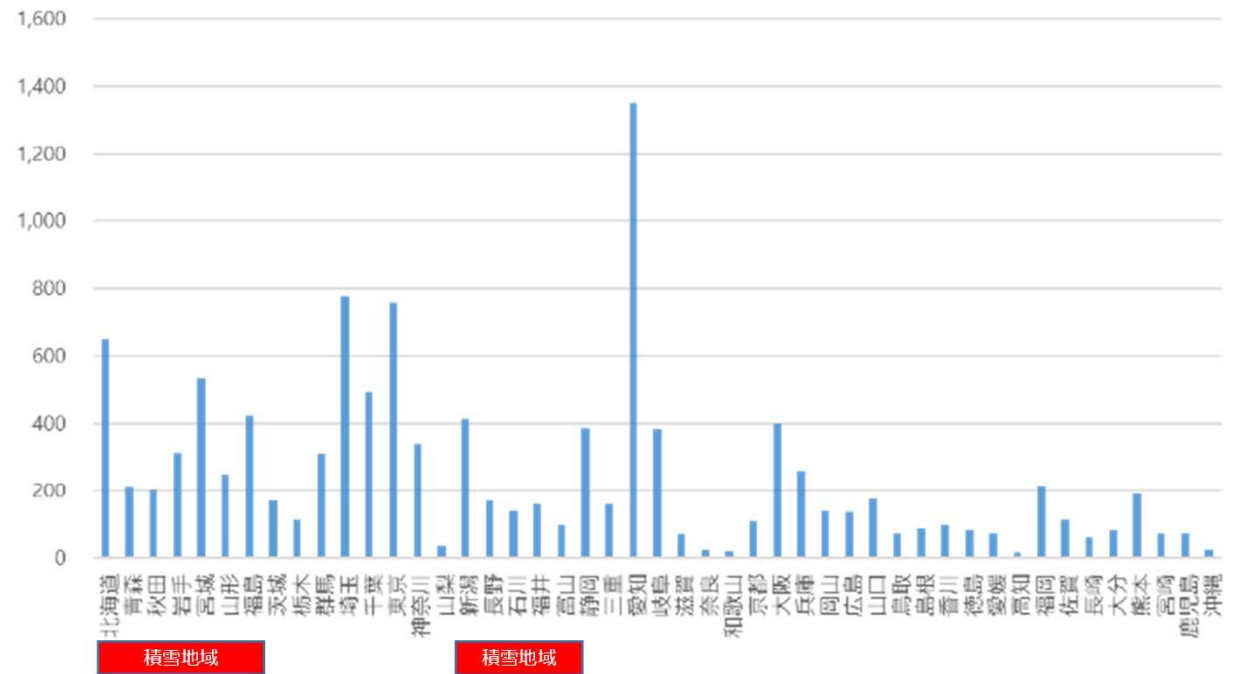
Q.ご利用の車両タイプを選んでください。



Q.車検・定期点検等は、どこで実施していますか？



Q.車両の登録地域を選んでください。

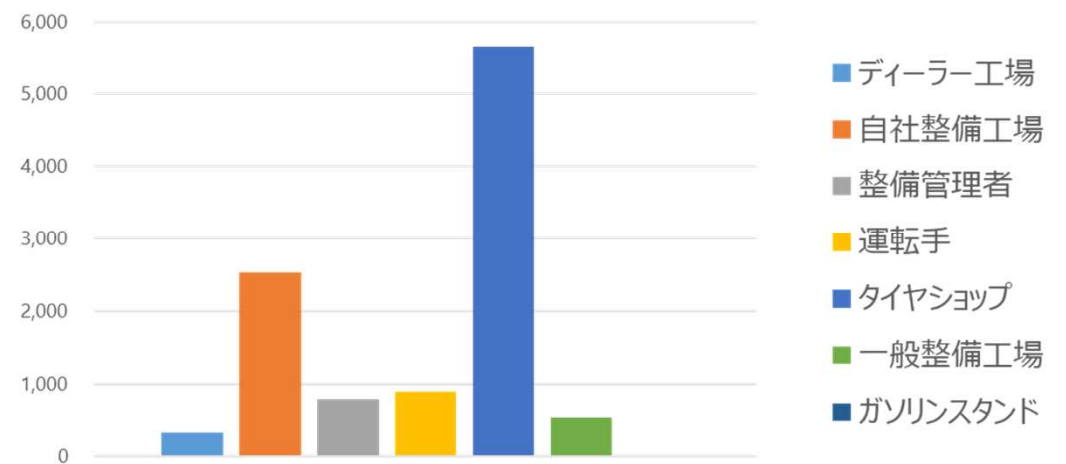
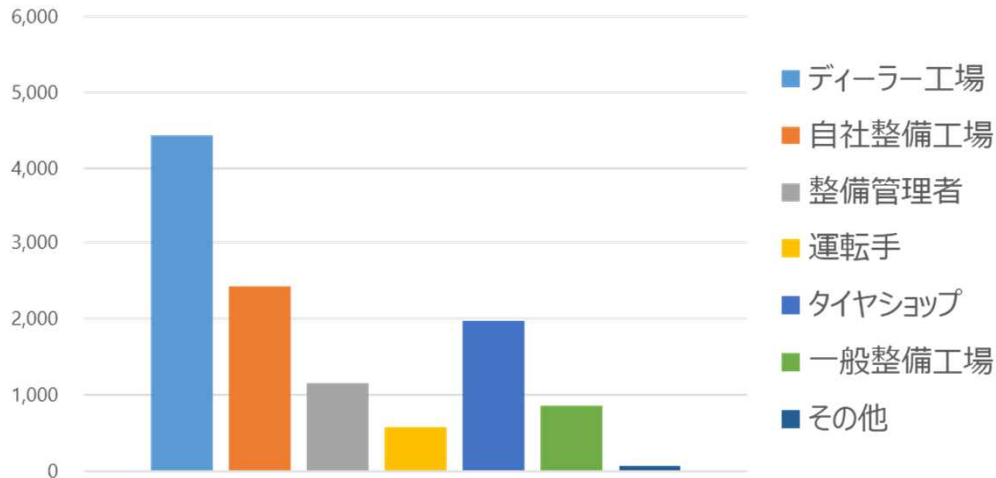


緊急点検 アンケート集計結果

- 緊急点検はディーラーで、冬用タイヤへの交換はタイヤショップで
 - ◆ タイヤショップ、お客様（自社整備工場/整備管理者/運転手）の冬用タイヤ交換が90%。
 - ◆ お客様、タイヤショップへの作業上の注意点や啓発活動が引き続き必須。

Q. 今回の緊急点検は、何処で(誰が)実施しますか？

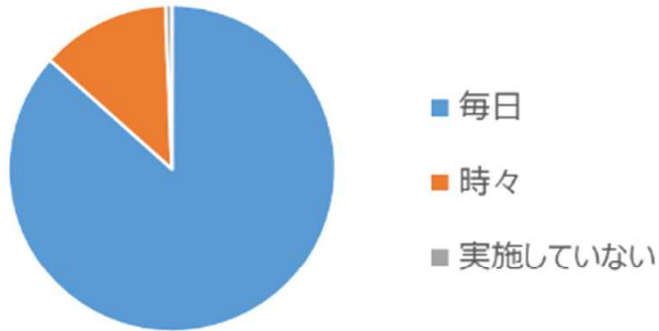
Q. 冬用タイヤへの交換は、何処で(誰が)実施していますか？



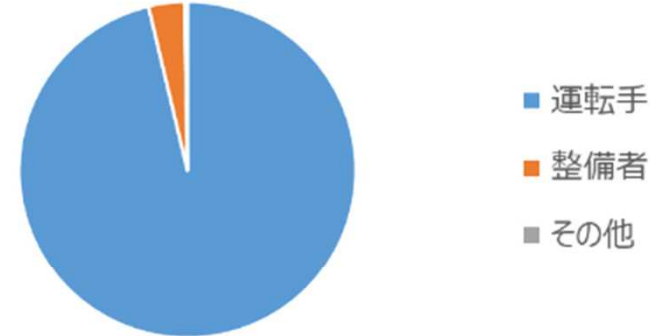
緊急点検 アンケート集計結果

□33%で、トルクレンチが使用されていない。10%は、インジケータやマーキングを知らない。

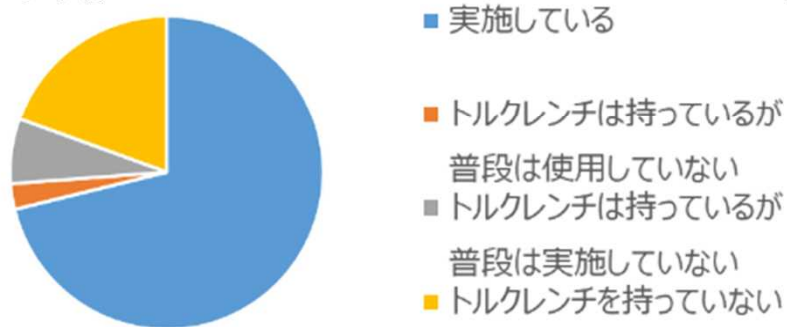
Q.日常点検の頻度は、どの程度ですか？



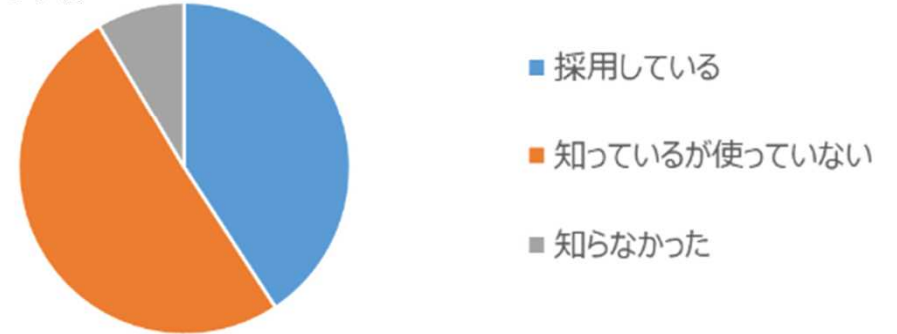
Q.日常点検は、どなたが実施していますか？



Q.車輪脱着後にトルクレンチを使用して増し締めを実施していますか？



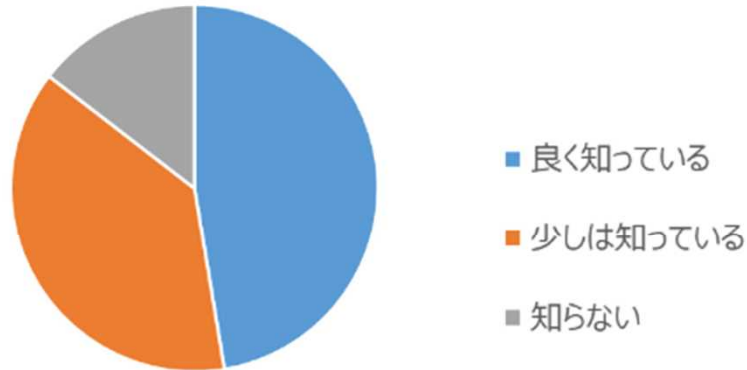
Q.日常点検をサポートするインジケータの装着や、マーキングについて御存知ですか？



緊急点検 アンケート集計結果

□締め付けに大きく影響する“ナット/ワッシャー間等へのオイル塗布”について、『知らなかった』『知っているが実施していない』との回答が見られ、引き続き 作業者への周知、作業の徹底が必須。

Q.毎年実施している自動車工業会の啓蒙活動（おちないの励行）を御存知ですか？



Q.ナット/ワッシャー間等へのオイル塗布を実施していますか？

